

平成18年6月26日

## BIKE SHOW Barcelona (バルセロナ自転車展)、及びスペイン自転車市場

バルセロナ(スペイン)で初めての自転車展示会が、2006年4月7日(金)から9日(日)の3日間、オリンピック・スタジアムに隣接する競技場を利用し、カタロニア地方政府がメインスポンサーとなって開催された。欧州内外の高級自転車ブランドが集まったこの展示会は、各種自転車レースを併催し大きな規模で行われた。

### 【BIKE SHOW Barcelona 展】

主催：OTRAS 展示社

会場：Palau Sant Jordi (サン・ジョルディ) スポーツ館及び屋外広場

会期：2006年4月7日(金)～9日 10:00～20:00

展示面積：サン・ジョルディ・スポーツ館 8,000 m<sup>2</sup>

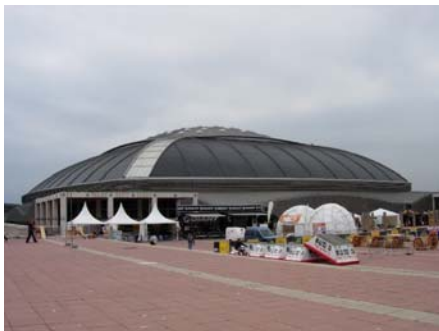
サン・ジョルディ広場 60,000 m<sup>2</sup>

入場者数：31,500人

出展社数：82社(14カ国)

### 1. 展示会概要

1992年にバルセロナオリンピックの開会式が開催されたモンジュイックの丘で自転車の展示会が開催された。この展示会は高級ブランドの自転車に焦点が当てられたハイエンド指向のものである。主催者によるとメインスポンサーであるカタロニア自治区(地方政府)ではこうした高級自転車の展示及び高次元の競技を実施することにより自転車ユーザーの増加を図ることを主目標にしている、との話であった。オランダ同様スペインでも自転車が日々の移動手段として認知されており、かつ気候も年間をとおして自転車の乗用に適しており、年間の自転車消費台数もほぼ一定している。自転車を取り巻く道路事情も恵まれており、自転車レーンが設置されている道路も多く、自転車利用推進のため自転車レーンの拡大も行われている。



サン・ジョルディスポーツ館



サン・ジョルディスポーツ館内部

## 2. 出展状況及び今後の動向

バルセロナで、今回初めて自転車展示会が開始された。トレック、スコット、キャノンデール及びスペシャライズドといったアメリカブランドのほか、ビアンキ、KTM 及びジャイアント等が大きなブースを構えており、全体では14の国と地域から82社が出展した。出展社にこの展示会は好評であったようで、既に来年の出展に向けスペースの拡大の要請が出ており、主催者によると来年は隣接しているホールも利用して出展面積の拡大を図る計画である、ということであった。

屋外の広場を利用した電動自転車の試乗コーナー、トライアル専用の試乗コース、オフロードのコース等も設けられており、新しい自転車を見に来る来場者だけでなく、自転車イベントを見に来る来場者や、競技に参加する人等あらゆる人を満足させることのできる総合的な自転車イベントを目指していることがうかがえ、来年以降の展示会の規模、出展者の拡大に期待が持てた。



キャノンデールブース



ジャイアント屋外ブース



スペシャライズドブース



トレックブース



ピアンキブース

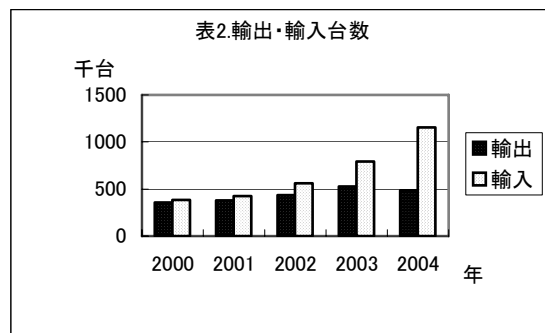
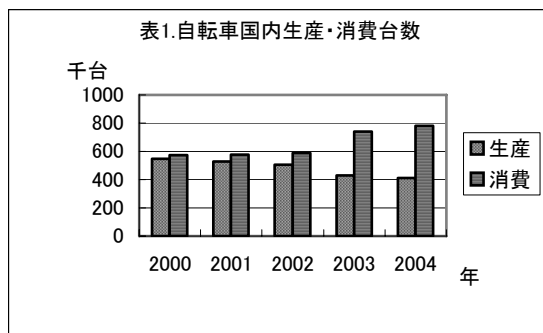


リーゼウトメラブース



ダウンヒルコース

### 3. スペイン自転車市場について



出所：SEEB（スペイン自転車工業会）

過去5年間の自転車国内生産・消費台数を表1に示す。2000年から2004年の5年間に生産台数は547千台から、410千台に減少した。一方、国内の消費台数は2000年の573千台から2004年の783千台へと増加し、国内市場が拡大していることがうかがえる。

更に2000年から2004年の輸出入台数の推移を表2に示す。2000年には輸出入とも40万台程度で均衡していたが、2004年になると輸出は488千台、輸入は1,157千台程度に伸び、この輸入台数の伸びが国内市場の拡大に結びついている状況が見て取れる。尚、最近の輸入の伸びは急激であり欧州の業界紙はこの数値に疑問を投げかけている。

一方、表2からは2000年から2004年にかけて輸出が僅かながら増加していることがわかる。しかし表1に示すとおり、2004年の輸出台数は488千台と、生産台数の410千台を上回

っている。その理由として、国内で生産された新車の輸出だけでなく、中古自転車の輸出、  
或いは一旦輸入したものを第三国へ輸出する迂回輸出分が含まれているものとみられる。

(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。